

# 平成30年度予算見積調書

課室名：スポーツ振興課  
 担当名：生涯スポーツ担当  
 内線：6952

(単位：千円)

番号	事業名		会計	款	項	目	説明事業	
B53	スポーツ医・科学拠点施設・水泳場整備事業費		一般会計	総務費	県民費	県民活動推進費	県民スポーツ振興費	
事業期間	平成28年度～平成32年度	根拠法令	スポーツ基本法第4、6、7、12、14、16、18、21条、埼玉県スポーツ振興のまちづくり条例		宣言項目	11	オリンピック・パラリンピックなどを契機とした地域の活性化	
					分野施策	061350	スポーツの振興	
1 事業概要			5 事業説明					
アスリートや子供から高齢者までが集い、競技力向上や体力・健康づくりを図ることができるスポーツの拠点として、スポーツ医・科学拠点施設及び水泳場の一体整備に向けた検討を行う。  (1) スポーツ医・科学拠点施設・水泳場整備事業費 43,308千円			(1) 事業内容 ア スポーツ医・科学拠点施設・水泳場整備事業費 43,308千円 (ア) 基本計画策定等 整備場所や施設の内容、規模等を決定する基本計画の策定等を行う。 (イ) 事業手法の検討調査 民間活力を導入するなどの事業手法について検討調査を行う。  (2) 事業計画 平成30年度～ 基本計画の策定、事業手法の検討調査 平成31年度～ 契約事務 平成33年度～ 設計、工事等  (3) 事業効果 ア 屋内水泳場 最先端の技術で競技力向上や体力・健康づくりをサポートする。 国内主要大会が開催可能な規模とする。 イ スポーツ医・科学拠点施設 スポーツ医科学の知見を活用し、アスリート育成・支援を行うとともに、その知見を一般の県民の体力・健康づくりなどにも生かす。 ウ 一体的な整備の利点（水泳場、スポーツ医・科学拠点施設等） (ア) 共通する施設・設備を一体的に整備・活用することで、建設経費・維持管理経費を削減できる。 (イ) プール（運動の実践）と医科学サポートの相乗効果により、施設の魅力・価値が高まることで、利用者の増大につながり、賑わいが創出される。 (ウ) プール単体に比べ、両施設の有効活用が可能となり、民間の創意工夫が一層期待できる。					
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)								
3 地方財政措置の状況 なし								
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×2.5人=23,750千円								
予算額			財 源 内 訳				一般財源	前年との 対比
決定額	43,308	3					43,305	20,408
前年額	22,900						22,900	